

連合「総対話活動」連合結成30周年に向け、情報の共有化と意思疎通をはかる！



JR総連は4月18日、現在連合が取り組んでいる情報の共有化と意思疎通を図るための「総対話活動」を目黒さつきビル会議室で開催した。

連合からは、逢見直人会長代行をはじめ、八木孝幸副事務局長、元林稔博総合国際局長、山根木晴久総合組織局長、漆原肇雇用対策局長、大林洋治組織局長が出席、JR総連は第12回執行委員会に参加した執行部と女性の担当部長2名が参加した。

冒頭、逢見会長代行が総対話活動の目的について、「来年が連合結成30周年になる。今後のあるべき姿を念頭に置きつつ、構成組織にお伺いし直接意見を交わし、ともに運動を進めていくための総対話である。①情報の共有化と意思疎通をはかる、②重要なテーマの議論をともに行い、一体感ある運動につなげる、③意見や提案を次期運動方針につなげる、ために忌憚のない意見をお願いしたい」と挨拶した。

JR総連を代表して榎本執行委員長は、「この場ができたことを非常に嬉しく思う。また、日頃のご支援・ご指導に感謝申し上げます」とお礼を述べ、JR東労組がスト権行使の予告通知を行ったことによって、組合員の大量脱退が続いていることに対するお詫びと、民進党議員によりJR総連を批判する質問主意書が出されたことに対する遺憾の意を表した。

対話は次の3つのテーマについて、それぞれ連合からの説明とJR総連参加者から意見により討論した。

【対話1】連合「人口減少・超少子高齢社会ビジョン」および「連合2035ビジョン」（仮称）について

【対話2】連合運動強化特別委員会について

【対話3】支え合い・助け合い運動について

JR総連は、今後とも連合運動の一翼を担い、より一層の協力と連携を約束し、連合との対話を終えた。



連合 逢見直人会長代行挨拶



JR総連 榎本一夫執行委員長挨拶